

# 大谷中学校だより



NO 3

URL <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~ootanj/NC2/>

H27年6月1日発行



## 登校坂のあれこれ

校長 濱 育代

早いもので、衣替えの季節をむかえました。半袖の生徒も増え、登校坂は新緑とカッターシャツの白色がよくマッチし、明るくなったような気がします。朝の児童生徒の会話の声も、その明るさに比例するかのようになり、大きくなってきました。中学生の挨拶の声や会釈の姿勢も丁寧で、綺麗になってきました。何より嬉しいのは、挨拶のときの笑顔が増えたことです。登校坂の生徒の明るい笑顔と綺麗な挨拶は、私に、一日のエネルギーを与えてくれます。中学生の全員に、その明るい笑顔と綺麗な挨拶が広がることを願っています。

先日から、この暑さが影響しているのでしょうか。登校坂から見下ろす海には「赤潮」が発生しています。自然界の不思議さを感じます。しかし、中学生にはあまり関心がないようで「校長先生、暑くなれば赤潮も発生しますよ」と、あっさり切り捨てられてしまいました。「中学生よ。当たり前の中に、不思議を見付けるからこそ、発見や進歩があるのですよ。」・・・今日の、登校坂から見下ろす海は、縹色でした。

5月27日の5日目「小中合同避難訓練」がありました。西部小学校の保健安全委員会の保護者の方々が中心となり、計画・準備、そして当日の運営にあたって下さいました。

避難訓練は「大谷分遣所での、浅田久美さんの防災講演会」と「地震・津波・大津波警報を想定した避難行動」の2本立てで構成されていました。小学校保護者の方々、大浜・上浜・川辺の地域の方々・自主防災本部長さんや大谷公民館長さんなど地域関係者の方々、珠洲警察署や大谷分遣所の方々なども参加して下さい、とても大がかりな避難訓練でした。

浅田さんとは、どの学年もつながりが深いからでしょうか。事後のふりかえりアンケートには、どの子もびっしりと感想を書いていました。3年生は、西部小学校としてはじめて、募金を市長室に届けに行ったこと。そのとき、浅田さんが、感謝の涙を流されたことを思い出したはず。2年生は、鯉のぼりフェスティバルで、声がかれんばかりに募金活動をおこない、多くの人々に励ましの言葉もらったこと。また、片道13時間かけて、直接釜石市立唐丹小学校まで、募金を届けに行ったことを思い出したはず。1年生は、何日もNHKの取材が入り、堂々と「僕たちの自慢は、ずっと東北を・釜石市を・唐丹小学校を忘れなかったこと。唐丹小学校に防災を学んでいること」と、インタビューに答えていたことを、思い出していたはず。だからこそ、44メートルの登校坂を、あんなに真剣に避難できたのだと思いました。誰一人ふざけることなく、あのきつい登校坂を、上を上を目指して駆け上がっていました。

ふりかえり感想は、全部で40個でした。その一つ一つには、しっかりと防災の捉えが記述されていました。季節を色濃く映し出す登校坂。生徒の想いを見つめられる登校坂。児童生徒の声が響く登校坂。そんな登校坂を生徒が登下校するのも、あと10ヶ月ほどになりました。



## 鯉のぼりフェスティバル

募金活動 10,330円 ありがとうございました

大谷地区恒例の鯉のぼりフェスティバルが3日、4日と行われました。初日は天気も良くお客さんが今まで以上にいるのではないと思うほど、一日中にぎわっていました。ボランティア活動も板についてきたのか、お客様相手に元気な声で対応している姿を見て嬉しくなってきました。

生徒会では、緑の羽根募金を行ったところあつという間にさばいてしまい、公民館長さんや水上さん（学校評議員）から、おほめの言葉だけでなく羽もなかったのに募金までしていただきました。

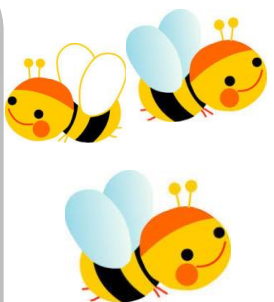
二日目は、雨や風が強い中でのボランティアでしたが、初日と同様に活動してくれました。活動の様子を少し紹介します。



## バス学習 自由活発に発言させ、発言力を養う教育方法。また、望ましい人間形成がねらい。

中学生の声が小さいという指摘から、どうしたら大きな声で挨拶をしたり、発表ができるのかを考えました。そこで、にぎやかにまるで大きな声をだしてがやがやしている姿がいいということで「バス学習」をすることになりました。アナウンサーなども原稿読みの練習をするために取り入れているそうです。朝の会が終わった後、早口言葉や発声練習などを3分間行っています。

自然と大きな声で挨拶をしたり発表できる日を楽しみにしています。そして好ましい人間関係が育ち、気軽に話せるようになってください。





## 黒米田植え

田植え稲刈りまでの一貫した農業体験と町づくり団体（平家の郷構想研究会）との世代間交流を目的とした黒米の田植えが今年度も実施されました。今年度はイノシシの対策が難しいことから、則貞の田んぼから森吉地区の田んぼに変更になりました。公民館の館長さんからは、「子ども達に親子で、または地域の方々と混じって作業をして下さい」と挨拶がありました。「中学校ではふるさと学習に力を注いでいますが、もう一つコミュニケーション能力の育成にも頑張っているの、ぜひ子ども達に話しかけて下さい」と校長からもお願いがありました。

新しい田んぼは、整理された田んぼなので浅く作業がしやすかったみたいです。1時間半ほどで田植え作業が終了しました。途中休憩をしましたが、吉原さんから「前びり・たばこと言います。」と説明がありました。そして、吉森さんからのヨモギ餅をいただきました。

この農業体験を通してふるさとを育む心が育てばと考えています。平家の郷構想の皆さん、苗を育てていただいた細谷さんありがとうございました。



		6月行事予定
1日	月	PTA 交通指導〔前・国永〕心臓検診
2日	火	保健指導 1年
3日	水	保健指導 2年 生徒会委員会
4日	木	保健指導 3年
5日	金	生徒集会
11日	木	激励会
13日	土	能登地区体育大会（卓球部：七尾総合体育館）
14日	日	能登地区体育大会（卓球部：七尾総合体育館） 能登地区体育大会（バスケ：中島体育館）？
15日	月	振替休日
16日	火	試食会、授業参観、大谷地区保健委員会 PTA 交通指導〔吉岡・本谷〕
18日	木	1年耳鼻咽喉検査
20日	土	能登地区バスケ大会（中島体育館）？20日
22日	月	指導主事訪問
23日	火	いしかわ読書の日
27日	土	県陸上競技大会（西部緑地）金田奈 28日まで
28日	日	ホットネット講座（内灘文化会館 13：30）



### 【 2年生 】

- ・被災地へ行ってきた自分なのに、その被災地への関心が薄れてきているなと思った。この機会に、被災地のことをもう一度思い出せて良かったと思った。
- ・唐丹小学校との交流は、自分たちのためにもずっと続けていければよいと思った。
- ・防潮堤が崩れる瞬間、家々が跡形もなく破壊されていく映像を見たとき、涙が出そうになりました。
- ・避難のときは、まず「自分の命を守りきる」そのために「素早い行動を起こす」ことが大切だということが分かりました。
- ・映像の中で、地域の方々が「津波が来たぞ」「早く逃げろ」と大声を出して助け合い、避難をしていたのが印象に残った。
- ・自分が、ひとり家にいるときのことを考えて、すぐに高台へ避難できるように、家の周辺の道をもう一度調べておこうと思った。
- ・津波の怖さを、改めて考えさせられる時間だった。
- ・どんな状況のときでも、地震になったときは、自力で避難できるようにしなければならないと思った。
- ・避難するときは、声をかけあって助け合い、でも素早く行動に移し、判断できる人でないと駄目だと思った。

### 【 3年生 】

- ・最近テレビでも見なくなった東北の復興の様子。久しぶりに津波の映像を見て、やっぱり怖いと思った。
- ・東日本大震災は、決して忘れてはならないことだと思った。
- ・唐丹小学校は、私たちの募金をとても喜んでくれていて聞いて嬉しかった。
- ・家や防潮堤が破壊されているのを見て、津波の怖さを思いだした。
- ・防潮堤の存在に安心せずにより高い所に向かって避難することの大切さを感じた。
- ・多くの人が震災を忘れていたように、私も忘れていたので、いけないと思った。
- ・津波のときは、油断せずに、高台へいくことの大切さを思いだした。

### 西部小学校・大谷中学校合同避難訓練の中学校アンケート結果

(1) 浅田さんのお話を聞いて、思ったことを書きましょう。

#### 【 1年生 】

- ・何回か浅田さんの映像を見たことがあるが、やっぱり高さ10メートルの防潮堤をなぎ倒してやってくる津波は、とっても怖いと思った。
- ・浅田さんが「地域の方や小学生にも、しっかりと声をかけ合って避難しよう」と言っておいでたのに、今日の訓練では、恥ずかしくてできなかった。だんだんと経験を積んで、できるようになりたい。浅田さんが言っておいでたような「地域の避難誘導のリーダー」になりたいと思った。
- ・小学校のとき何回もお話は聞いているけれど、今日も、津波は怖いなと思った。
- ・私は、今日すぐにはできなかったけれど、「声をかけ合う」ことの大切さはよく分かった。